

第 2 回松田町文化センター複合拠点化検討協議会
議事要旨

1. 日 時 平成 29 年 11 月 7 日（火）14 時～16 時
2. 会 場 松田町役場 4 階 4A4B 特別会議室
3. 出席者 委 員：古舘信生氏（会長）、吉田恵美子氏、木口まり子氏、武尾哲治氏、
関野敏樹氏、岡本安夫氏、香川義美氏（副会長）、村野幸男氏、
今泉好夫氏、堀真記氏
事務局：政策推進課（吉田参事、柳澤）
教育課（川崎、松本）
ランドブレイン株式会社（田中、山内）

※以下「・」：委員意見、「→」：事務局回答

1. 開会
・吉田参事
2. 議題
(1) 第 1 回検討協議会議事の確認
・資料 2 について政策推進課より説明
→会議録については、委員の皆様を確認頂き、問題が無ければホームページにアップする。
→第 1 回検討協議会については、整備イメージの概要、抱えている課題、地方創生交付金を活用するに至った経緯について説明。
→松田町民文化センターの複合拠点化は、何に着目し、何処を目指していくか。従来の文化施設から、スポーツや未病、国際交流を加えた複合拠点施設として、足柄上郡を網羅した新しい要素を盛り込む拠点施設として広域的な役割を果たしていきたい。
→整備内容は、スポーツライミングを主に説明し、今年度の工事の進捗について報告。現地視察を実施後、ご質問ご意見を頂いた。
(2) 拠点施設整備後の活用方策に関する検討
・資料 3.1 について政策推進課より説明
→複合拠点化の目的について、公共交通利便性という地の利を活かし、県西北部地域をリードし集客をする拠点、いわゆる賑わいの拠点を目指していきたい。
→県西北部地域の拠点として、余所に無い機能を有した施設を整備する。かつて松田にしかなかった文化施設機能が、昨今ではどこも同種施設が整備されている状況である。このような中でどのように差別化し、広域的な拠点として機能していくか、独自性独創性を目指していきたい。
→文化的な催しや機能もさらに充実させていき、人がゆっくりできる場所、たまり場をつくらしていきたい。
→町民や子どもたちへ、文化やスポーツに触れる機会を増やす施設として新たな魅力も体感できるようにしていきたい。

→地域や周辺自治体への波及効果を生む施設として、一つ飛びぬけたものを持ち、松田が先例となるものを目指していきたい。

・資料3.2についてランドブレインより説明

- 資料の複合拠点整備後の活用方策については、あくまで例として列記しているもの。
- 文化機能としては、図書館で本に触れる機会を増やすこと、例えば青空広場に屋根がかかるので屋根の下で本を読む、作家を招聘したイベントなど本に触れる機会を創出できるのではないか。
- 大ホールでは施設が更新されるため、従来の活動を更に強化し、1000人規模のコンサートを誘致する。地域の伝統文化の鑑賞会、外国文化に触れるホールイベント等の取組みが考えられる。
- スポーツについては、大ホールで客席付きのクライミングウォールは珍しいので、観客を呼んでMC等を行ないながら照明を工夫したイベント開催が可能のため、そうしたスポーツクライミングの大会を定期的にできないかと考える。
- また、オリンピックなどスポーツをテーマとした映画上映やパブリックビューイングも考えられる。国際交流の視点については、世界の伝統料理を学ぶ食を活かした交流や文化的な交流が考えられる。
- あしがらマルシェなど食のイベントは集客力が高いので、駅から近い文化センターで開催すれば、より地域の食をPRできるのではないか。

<ご意見、質問など>

- ・劇場型の整理として、ボルダリングの施設を作ることはどうやって見せるかがポイントで、もともと使える舞台の機能を有効活用し、更に更新する照明・音響等も使って盛り上げることが期待される。「観るスポーツ」としては可能性を感じる。
- ・色々な分野でイベントが開催できると思う。イベント誘致はよくある話だが、地元の皆様が賑わいを作ることがポイントと考える。地元の皆様が定期的にこの施設へ関わる仕組みがあると良い。施設の盛り上がり如何で、我々もお手伝い出来るのではないかと思う。
- ・スポーツクライミングは、オリンピックの追加種目となり競技人口も増えているが、新しいスポーツなので指導者が少ない。安全管理上は、適切な指導者が必要である。施設規模的には国内大会に十分使えるが、ワールドカップには対応できない。
- ・リードクライミング単独の大会もあるので、そうした大会を招致すればよい。国民体育大会ではリード、ボルダリング競技の2種目があり、関東ブロックを通過するには2種目合計の成績が必要となる。2種目セット1泊2日ぐらいの日程で開催すると良い。
- ・スポーツクライミングの普及をどうするかも重要であり、地域として盛り上げることでイベントが定着できるのではないか。また、十分な設備であるが天候的な課題がある。
- ・文化センターは30数年前に1市5町を見据えて建設された。町長は「温故知新」という言葉を大事にされている。「町民」という言葉を冠した施設は、松田町だけであり、町民を大事にするという当時の意気込みを感じる。だからこそ公民館機能を大事すべきと思う。
- ・「稼ぎ」という言葉が使われるが、この施設で、どの程度の収益を見込んでいるのか。単に稼ぐのであればカルチャーセンターという名称でよい。公民館機能を残していく視点で考えて頂きたい。
- ・国際交流を推進するとあるが、自分は川崎のコリアンや松田小学校にいる日本語が分からな

い子どもを思い出した。日本語が分からない子どもに日本語を教えることも国際交流ではないか。更に彼らの母国文化を学べば良いのではないかと考える。

- ・稼ぎという点について、事務局に説明をお願いしたい。

→「稼ぐ」という言葉は刺激が強いかもしれないが、行政でも少しずつ使用し始めた。公共には赤字の概念は無い。例えば道路を作る支出には、物流ができるという投資目的や効果がある。文化センター建設時には、利用料の収入や活用があり、その目的を果たせてきたが、現在は利活用が厳しい状況にある。そこに税金を投資しているところに課題がある。

→これから取り組むことは、従来にない新たな領域に踏み出そうとしている。この新たな取り組みにかかるランニングコストについては、稼いでいきたいと考えている。また、単純に税金で事業を進めるのではなく、民間の力を借りて運営等の検討をしていきたい。町民サービスについては更に良くなっていくことを目指したい。

- ・文化センターは公民館とドッキングしている状態であり、果たすべき機能は2つあるが、町民にとっては1つの施設と考える。町民の生涯学習・社会教育に支障がないように進めていきたい。私たちの考えるところで協力していきたい。

- ・ホールの音響については大丈夫なのか。新しい反響板ができるのか知りたい。今までは反響板がしっかり（3面）していたため、南足柄市や秦野市の大ホールに匹敵する音質を誇った。山北町の多目的ホールには反響板がなく、稼げる音楽の興行はできないと聞いている。また、オーケストラピットの活用は、段差などの問題が生じないか。

→反響版は、側面は残り後方は無くなる。後方には幕は入るが、生の音楽などでは一定の影響が想定される。オーケストラピットは、舞台とフラットになるので問題は生じない。

- ・音響に関しては、映画の上映（生の音楽ではない）なら影響が無いと思われるので、活用方策として検討されたい。

- ・国際交流については、どういう国際交流を目指すのか。異文化の交流を目指すのか。指定管理については、メリットデメリットあるのでよく検討して頂きたい。

→国際交流事業については、町内に外国籍の方が約50名いらっしゃるので、地域との共生というテーマも大事にしていきたい。主な目的としては、インバウンドという視点と、グローバルな人材育成という視点がある。来町する外国人を「おもてなし」したり、ホームステイ等ができる環境が今の松田町には無いので、現在取り組んでいる国際交流事業を支えているボランティアを大事にしながら、組織化を推進し、受入環境等の向上を図っていきたい。

- ・松田に暮らしている外国人も大事ではないか。その人たちとの交流も含めた取組みを進めるべき。

- ・外国人の居住も観光客も少ない。そのような中で、外国人に来てもらうためには、「この町は自然が多い」という特性を活かすべきである。自然が多い場所に訪れたいという外国人も潜在的にいると思う。名所巡りの観光ではなく、自然をはじめとする松田町の良さを感じてもらえる人達をターゲットにすると良いのではないか。

- ・未来を担う子ども達がグローバルな人材に育ってほしいという思いもあるが、英会話イコール国際交流とは思えない。日本文化を知りたい外国人に、松田の良さを発信することも国際交流になるのではないか。

- ・例えば米軍基地がある地域においては、基地問題は負の遺産であると思われるが、地元の人にとってみれば国際交流が促進される面もあると思う。

- ・本施設では様々な可能性を見出し、松田の拠点、玄関口として活用することで、新たな機能

を付与する。各種機能がコラボレーションし、一つのコンセプトを形成することで、「松田には、こんなスゴイものがあるんだ」と認知度が上がり、県西地域の活性化にも役割を果たすという形でまとめ上げていくとよいと思う。

- ・映画について、ホールは奥行があるので上映できるポテンシャルがある。近隣には映画館が少なく、映画を見るには文化センターのような階段状の席の方が見やすい。子どもの教育に良いもの等を上映できればよいと思う。

→大ホールのリノベーションに関しては、施設の老朽化と設備陳腐化の解消も一つのテーマである。一方で外部活用を促進し利用料収入を得るために、クライミングウォールの設置や照明、音響施設を更新していく。公民館については、手を加えたり、何か機能を減らしたりするものではない。例えば、調理実習室の設備は更新を、町民広場には屋根を整備し人が集える場所にする等、今までの機能を活かしながら古い物は直すということで取り組んでいく。「ボルタリングの施設になるのではないか」という意見もあったが、そのあたりの情報は整理する必要があると思う。そういう意味では、文化センターのホール、公民館はバラバラでなく一体として町民の誇りある施設としてどう活用するかという意見を頂戴している。

- ・この施設には新たな機能が加わるが、図書館と文化振興の機能は現状を維持するという考えで良いか。

→基本的に現機能の維持が前提だが、本事業を推進するにあたっては、公民館であることで制限がかかってしまう。例えば調理実習室も公民館施設だが、リノベーションしただけでは効果は発揮されないと思う。プラスアルファとして有料で講師を呼ぶ料理教室等も行いたい、社会教育法上はできない。町民にとっては学習機会の提供が増えることにもなるので、そのような観点も採用しながら今の機能を低下させない方法を考えていきたい。

- ・皆様から頂いた意見を踏まえ、少しずつまとめに入っていきたい。

資料3の6ページを政策推進課より説明

→次回については、頂いた意見を踏まえ事務局として1、2案提示していきたい。

→活用方策に関する論点整理について、これまでの目指していたところ、これから目指すものを皆さまからの意見を基に深みのあるものにしたい。

→複合施設化の論点整理について、当たり前の視点であるが、第1に「町民のための拠点施設である事」が重要であり利用促進を図りたい。第2に「広域的に魅力的な拠点施設として町外からの来訪・集客を図る」という点で整理させて頂いた。最終的には松田町の地域活性化を図りたい。

- ・皆様の意見を反映していると思う。キャッチフレーズとして、「松田は今までと違ってこうである」、という事が一言で伝えられる表現があると良い。今までの議論を踏まえ短いフレーズを検討されたい。

資料4、資料5をランドブレインより説明

→運営方法について町の直営、指定管理制度の違いについて整理させて頂いた。施設の維持管理、事務、企画運営、集客活動等、部分的に直営と民間で役割分担が考えられる。

→施設活用の頻度について、直営と民間で活用の頻度が左右されるわけでない。南足柄市は指定管理を行っているが1,000人規模のホールでもあるため、公的利用が多い。対して秦

野市は直営であるが1,500人規模であるためイベントは少ないもののアーティストを呼んだ有料イベントが実施できる。何れにしても、現在、文化センターと公民館を管理しているのは町であるが、外部の民間のアイディアは入れていく必要があると思う。

→施設の性格や活用方策に基づきどう区分していくのか、活用していくためにはどう運営していくのか、議論が必要である。

資料5 裏面について政策推進課より説明

→施設運営管理イメージについて、クライミングに関しては外側にリードウォール、大ホールにボルダリングのウォールを設置後に、町の職員が全て管理するのは、専門性を必要とするため難しい。クライミング利用時は外部に委託することを考えている。

→大ホールに関しては、民間興行を数多く誘致したいため指定管理または管理委託で進めていきたい。また、大ホールの機能の中にボルタリング機能が付加していると思う。民間委託の際には、ウォールの管理だけをお願いするのか、ホールとウォール一体でお願いできるのか、という点も今後検討していきたい。

→広場については町直営で進めようと考えている。トレーニングの管理運営についてはどのような運営にしていくか検討が必要である。

・管理運営の仕方について、町の意向を確認できたということで、次回議論していきたい。

3. その他について

→次回について、今日の議論内容についてはご理解頂いたと思う。自身の団体や組織でこのような催し物が出来る、町の予算があればこのような事が出来る、自分達の強みを活かしてできるものがあるということを随時受け付けているので、ご提案をお願いする。

→第4回の会議日程は、12月21日（木）の10時からに設定する。

→議題の活用方法では、活発なご発言をいただき、皆様の考えが伝わったかと思う。次回については、運営関連を主に議論していきたい。

以上